

6月の園だより

令和7年 5月27日
杉並区立成田西子供園
園長 齋藤 由美

園の遊びの文化を引き継いで

園長 齋藤 由美

新年度がスタートし2カ月経ちました。子どもたちは、新しい環境や先生たちとの生活にも慣れ、やりたいことを見つけて生き生きと遊んでいます。泣いたり笑ったりと毎日いろいろな表情を見せてくれています。

保護者会でもお話しましたが、自園は単学級ということもあり縦割りの関わりを大切にしています。保護者ボランティアの方々に土づくりをしていただいた後は、3学年の子どもたちが同じ場で幼虫や取り除いた球根、葉を使い、学年様々に自然と触れ合う姿が見られました。作った大きな畑には、全園児で野菜の苗を植え生長を楽しむに見守っています。

さて、先日年長組が井の頭自然文化園に遠足に行きました。遠足から帰る頃には、「らっこ組さんとぺんぎん組さんに何か楽しいことをしてあげたい。」「遊園地をつくろうよ。」といった声が上がっていました。そして、翌日から友達とジェットコースター、カフェ、むしむしはくぶつかん、アイドルショーなど、少しずつ楽しそうなお店をつくり始めました。自分たちで互いの遊び場を行き来して遊びながら刺激を受け合い、友達と力を合わせてつくっていく姿がありました。まだ年長になったばかりということもあり、自分たちだけで友達とめあてに向かって進めたり、やりたいことを実現するための方法を考えたりするには、保育者の援助が必要です。しかし、子どもたちの心の中には、昨年、一昨年と年長組の遊園地で自分たちがお客さんとして遊んで楽しかったという思いが残っています。こうした経験が自分たちも「遊園地を作ってお客さんを楽しませたい!」という原動力につながっているようでした。

らっこ組やぺんぎん組は心をワクワクさせながら順番を待ち、いるか組のお兄さんお姉さんに案内してもらいながら、乗ったり見たり食べたりと、遊園地での遊びを楽しみました。何度も遊園地に通う姿がありました。ホールの遊園地を片付けた後も、らっこ組の子どもたちはもっと遊びたいと、いるか組へ「今日も遊園地やりますか?」と聞きに行く姿がありました。

年長さんに楽しませてもらった経験は、年中・年少組の子どもたちにとって大きな刺激となり、今後自分たちも「あんなふうにしてみたい。」「やってみたい。」という思いにつながっていくことでしょう。また、お客さんの喜ぶ顔を見て、年長組も「すごいことができた。」「やってよかった。」「次はこんなことをしてみたい!」という意欲につながっていくことでしょう。遊びを通して気持ちがつながり、憧れが意欲へと変わっていくそんな素敵な場面がたくさん見られています。

毎年この時期になると年長組の遠足後に遊園地ごっこが始まり、カラフルなパラソルがホールに立てられ、子どもたちが楽しそうに遊ぶ光景があります。遊びの中にあるワクワクや楽しさが、言葉を超えて伝わっていくのがすごいことだなと感じます。園の中で育まれてきた遊びの文化が、毎年少しずつ形を変えながらもしっかりと引き継がれています。これから子どもたちの遊びがどのように展開されていくのか楽しみです。

今月も、子どもたち一人ひとりの「やってみたい。」「こんなふうにしたい。」とワクワクと心を動かす気持ちに寄り添い、夢中になって遊べるようにしていきます。四季折々の中でできる豊かな体験も逃さないように環境を工夫してまいります。

これから梅雨の季節に入り気温や湿度の変化が大きい時期となります。こまめな休息や水分補給をしながら子どもたちが毎日元気に過ごせるよう見守っていきます。

☆子どもたちの様子と月のねらい・おすすめ絵本☆

3歳児らっこ組

♡子どもたちの様子♡

登園すると身支度を済ませて自分のしたい遊びを見付け、動きだす姿が見られるようになってきました。保育室でもウレタン積み木を使い始め、積んだり、並べたりして、お家や乗り物に見立てて遊んでいます。暑い日には、砂場で裸足になって砂や泥の感触を味わうような遊びも楽しみ始めました。

今月も、自分で好きなことを見付けて遊ぶ中で、「楽しかった」「またやりたい」という気持ちをもてるようにしていきます。

所持品の始末や身支度では、仕方が分かり、自分でできることをやってみようとする姿が増えてきました。時には、保育者に手伝ってほしい思いを表情や言葉で伝え、一緒に行くことで「できたね!」という気持ちを積み重ねていくようにしています。

☆今月のねらい☆

○自分の好きなものや場を見付けて繰り返し遊ぶことを楽しむ。

○砂や水に触れて遊ぶ心地よさや楽しさを感じる。

○身の回りのことを保育者に手伝ってもらいながら、自分で行おうとする。

◆おすすめ絵本◆

『だんごむしのおうち』 澤口たまみ・作／たしろちさと・絵 福音館書店

『おさんぽ おさんぽ』 作・絵：ひろのたかこ 福音館書店

4歳児ぺんぎん組

♡子どもたちの様子♡

中型積み木が使えるようになり、自分たちで場を作って遊ぶことが楽しくなってきました。また、散歩で出会ったダンゴムシをきっかけに、画用紙でダンゴムシを作る、ダンゴムシになりきっておうちを作る、本物のダンゴムシが遊べる場を廃材で作るなど、作ることやなりきることを楽しんでいます。今月も、なりきったり動いたりする中で自分の思いやイメージを表し、のびのびと遊ぶことができるよう、保育者も一緒に楽しみながら遊びを支えています。

今月からプール指導が始まります。いつもと違う活動の中で解放感を味わいながら、水の心地よさや体が浮く感覚など、水遊びならではの楽しさを感じられるようにしていきます。水への親しみは、お子さんによってそれぞれかと思えます。一人ひとりが安心して水とかかわり、楽しさを感じられるよう、それぞれに合ったかかわりをしていきます。

☆今月のねらい☆

○自分のやりたい遊びを楽しむ中で、自分の思いを出したり、友達との関わりを楽しんだりする。

○水の心地よさや開放感を感じながら、遊ぶ楽しさを感じる。

○園生活に必要なことが分かり、自分から進んで行おうとする。

◆おすすめ絵本◆

『すなばのだいぼうけん』 いとうひろし・作／絵 ポプラ社

『ふたのたね（シリーズ）』 作：佐々木マキ／絵本館

5歳児いるか組

♡子どもたちの様子♡

井の頭自然文化園への遠足では、動物や水辺の生き物を見たり、ペアの友達と乗り物に乗ったりすることを楽しみました。園に帰ってからは、「もう一度乗り物に乗りたくない」「年下の子にも楽しいことをさせてあげたい」という気持ちで、乗り物づくりや虫博物館づくりをして、楽しかった経験を再現して遊ぶ姿がありました。2～3人の友達と、考えや力を出し合いながら遊ぶようになってきています。数日後には、みんなの楽しい遊びがホールに集まり、「遊園地」として異年齢児を招待することも楽しみました。

今月からは、プール遊びも始まります。水への親しみ具合に合わせながら、水の中で伸び伸びと体を動かす楽しさや開放感を感じられるようにしていきます。

☆今月のねらい☆

○「こうしたい」という自分のめあてをもち、考えたり工夫したりしながら遊ぶことを楽しむ。

○友達と遊び方を確認したり伝え合ったりして進めようとする。

○プール遊びの約束の意味や大切さに気付き、安全に気を付けながら楽しむ。

◆おすすめ絵本◆

『ロボット・カミイ』 ふるたたるひ・作／ほりうちせいichi・絵 福音館書店

『みずたまレンズ』 今森光彦・作 福音館書店